

お茶の水女大家政 湯沢 雅彦

東洋英和女大人文 ○川崎末美

戸板女子短大 久保 桂子

ライフ・デザイン研 林千鶴

目的 未婚者および既婚者の結婚観(1)と同じ。(2)では既婚者の結婚観を検討する。

方法 未婚者および既婚者の結婚観(1)と同じ。既婚者の年齢は、男性の66%、女性の85%が30歳代以下である。職種は男性の39%が技術、41%が事務・営業・サービス、19%が製造、女性は67%が製造、24%が事務である。男性の40%が大卒以上、女性の66%が高卒、12%が中卒である。男性は40%が共働き、女性は全員が共働きである。どちらかの親と同居しているものは男性16%、女性41%である。結婚形態は、男性の75%、女性の68%が恋愛結婚で、そのうち男女とも約半数が職場での恋愛結婚である。

結果 ①「結婚の時、かなり考慮したほうが良い」と答えた者の多い項目は、男女とも「ものの考え方」「フィーリング」「家庭的であること」である。女性が男性よりも重視している項目は、「収入」「職業」「家庭環境・家柄」「相手の親との相性」である。②結婚したメリットが「かなりある」と答えた者が最も多い項目は、男性が「家事をやってくれる人ができた」、女性が「人生を共に支えあっていく人ができた」であり、男女にズレがある。③「結婚しない方が良かった」と思うことがある者は、男女ともかなり多いが(男性44%、女性63%)、結婚したことは肯定的に受け止められている(結婚して「とても良かった」が男性34%、女性19%、「いろいろ問題もあるが良かった」が男性56%、女性55%)。全体として、既婚者の方が未婚者に比べて結婚をより現実的に捉えており、そうした傾向は、「フィーリング」よりも「ものの考え方」を重視、「収入」を重視する割合が既婚者の方が高いことなどに示されている。